

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.21

30000円の旅



たとえば、こんな旅いかがですか？

かもめバス1日周遊券	1,000円
海の博物館入館料	800円
お絵かき水族館 体験	600円
カフェあらみ	
アカモク入り伊勢うどん	600円
<hr/>	
大人1人あたり合計	3,000円

現在、市立海の博物館ではチームラボお絵かき水族館を実施しています。お絵かき水族館とは、自分で描いた魚がスクリーンに映し出されて泳ぎだすデジタルアートのことで、遊び方は次のとおりです。
①1枚画用紙をもらおう。クレヨンでカラフルに描く。うすく下絵があるのでだれでもすぐ描ける。それとは関係なくオリジナルも可。



海の博物館でのお絵かき水族館の様子

②機械で読み取ってもらう。
③大画面に自分の書いた魚が泳ぎ出す。
どーせ子どもの遊びでしよーってなめてはいけません。大人が楽しめるかって？
はつきり言って大人のままで楽しめません。

でもここでは大人の皆さんも子どもに返るんです。

家族連れでも、お父さんとお母さんが子どもそつちのけではしゃぐ様子が見て取れます。

「あのチームラボのお絵かき水族館を鳥羽でやってるの？」
「えっ、何で海の博物館で？」
「てよく聞かれました。そこで好評につき延長しました。」
4月7日(日)までです。

こんなに楽しいんだったら、先月紹介すべきでした。ゴメンなさい。

※そのあとも、かもめバスの一日周遊券で、石鏡や国崎、石神さんのある相差まで足を運んでみてはいかがでしょう。



私が描いた海女さん



こちらのQRコードで動画をお楽しみいただけます



Vol.179

市民課人権・市民交流係 ☎ 29 1126

平成の終わりに考えること

あともう少しで「平成」が終わるつとしていきます。

1989年1月8日から始まった「平成」という時代を振り返ってみると、自然災害が多い時代でした。

平成3年5月雲仙普賢岳の火砕流をはじめ、平成7年1月阪神淡路大震災、平成23年3月東日本大震災、平成26年9月御嶽山噴火、平成28年熊本地震が発生するなど各地に甚大な被害を及ぼしました。これらの大災害により、多くの人命が奪われ、危険にさらされたほか、平穏な日常も奪われてしまい、避難所での生活を余儀なくされました。

大勢の人と共同生活をする慣れない避難所での生活は、プライバシーの確保や体調の維持管理が難しく、特に乳幼児

や高齢者、障がい者、妊産婦および外国人など特別な支援を必要とする災害時要援護者の心身の負担は計り知れないものとなりました。

こつこつ時にこそ避難所では、お互いに協力し合い、譲り合うことが大切なのです。

人間、誰しも自分が窮地に追いやられると、自分のことで精一杯になってしまい、他人を思いやる気持ちに余裕がなくなってしまう。

しかし、被災地で炊き出しの順番を守る被災者を見た海外メディアからは、「非常時にも冷静で秩序を守る国民」として称賛されています。

わたしたちが暮らす伊勢志摩地域は、30年以内に70%、80%の確立で南海トラフ地震が発生するといわれています。

災害が発生した時は、自分と家族の安全は自分で守る「自助」、地域住民が相互に助け合う「共助」が被害を少なくするための力となります。

近年、地域のつながりや近所付き合いの希薄化が懸念されてきている中、災害時用の備蓄品や持ち出し袋といった備えも大切ですが、それ以上に地域における人とのつながりが重要ではないでしょうか。